

行政の 失敗 を 改善（自らの課題）

熊本地震・能登半島地震の経験から

1 「車中泊避難の改善業務」 Bosai Tech 株式会社の取組

今回の能登半島地震でも多くの車中泊避難が行われ、災害関連死も出た。災害で車中泊避難はなくならい、正しい車中泊避難を支援し災害関連死を防ぐためのハード(施設)&ソフト(情報把握・避難支援)整備を行います。

2 「物資集積センター運営支援業務」 TSP太陽 株式会社の取組

熊本地震、能登半島地震でも支援に入った自治体が物資倉庫の管理・運営を行ったが、日頃から行っていない業務に戸惑い疲弊。熊本地震で民間イベント会社が管理・運営を行い成果をあげました、民間での支援体制を構築します。

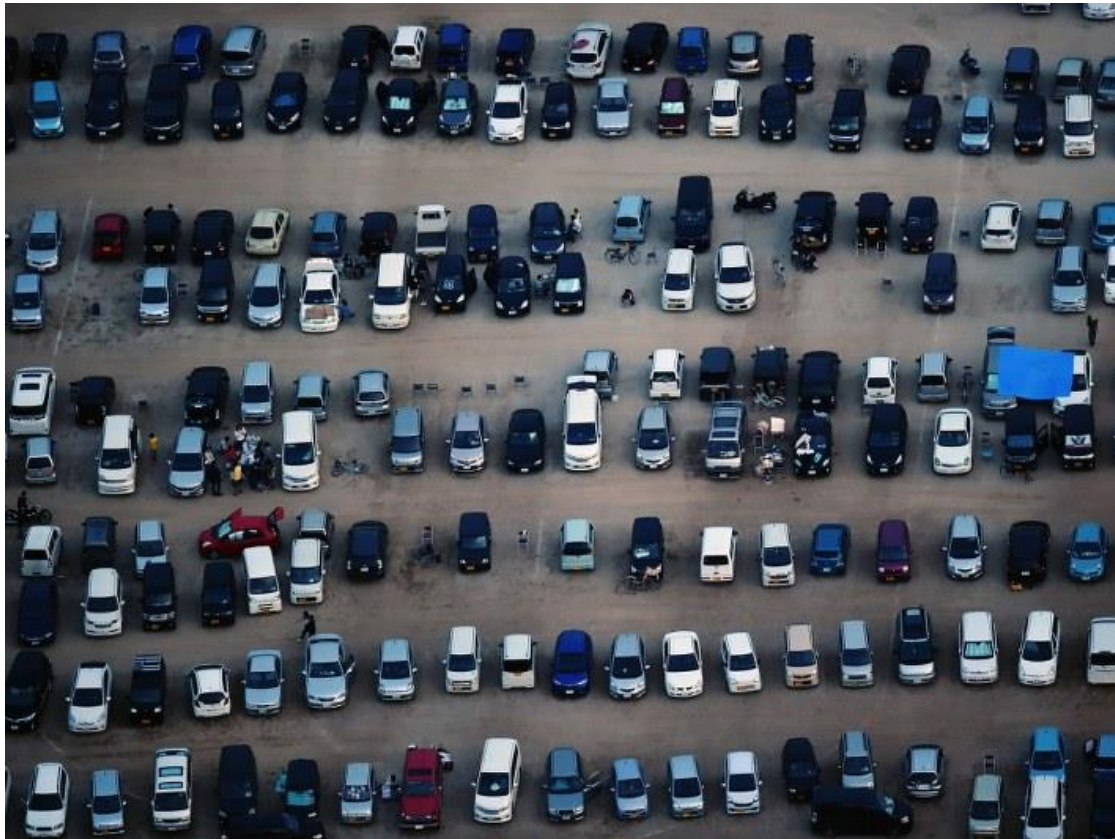
3 「災害時宿泊支援業務」 一般社団法人 日本RV協会の取組

今回の様な半島地震で交通機関が寸断された場合にキャンピングカーによる宿泊支援を行います。

車中泊避難の実態を **行政は把握できていない** 現状

熊本地震でも車中泊避難の実態を行政は把握できていない状況でした

熊本地震のアンケート結果でも避難者の約6割の方が車中泊避難をしたという結果が出たが、この8年 **行政は何か改善してきたか？**



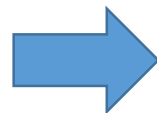
熊本地震での車中泊避難



能登半島地震での車中泊避難

車中泊避難の改善業務

「災害で助かった命を失わない」



「安心安全な車中泊避難を目指す」

国の防災基本計画が修正され、車中泊避難者への支援が明記されました

令和6年元旦、目を疑うような「令和6年能登半島地震」が発生しました。

近年、自然災害が激甚化・頻発化しているとともに、南海トラフ地震や首都直下型地震等の大規模災害の危機に迫られています。

個々の事情により避難所以外に避難する被災者の増加や被災者の支援を担う行政職員の減少など、避難生活を取り巻く環境が大きく変化しています。

これらの環境変化に対応した支援の実施方策について **令和6年6月**

国の防災基本計画が修正され、車中泊避難者への支援が明記

そして「在宅・車中泊避難者等の支援の手引き」が策定・公表されました

「災害時の車中泊避難等の課題解決に向けた研究に関する連携協定」

2024年9月11日 熊本市・崇城大学：Bosai Tech(株)で連携協定を締結しました

熊本市と崇城大、Bosai Tech株式会社（熊本市）は11日、災害時の車中泊避難の課題解決に向けた協定を結んだ。

行政・大学・民間の三者で連携して研究し、避難者の実態把握やエコノミークラス症候群への対策などに役立てる。

熊本市長は防災に関してとても積極的で、先日の議会でも車中泊避難者の支援に関して「全国の実験となるような取組を行いたい」と答弁され、すぐにこの協定締結が実現しました



災害時の車中泊避難者を支援するために、指定の場所に集約することは効果的と考えられます。そのために、次の3項目の準備が事前に必要と考えています。

車中泊避難場所のハード整備



公衆トイレ
循環型トイレ
仮設トイレなど



無電源街灯
防犯カメラ

**車中泊避難パークを事前に設置
立地や災害リスクによって準備**

アプリでの情報連携

＜車中泊パーク＞

- ・利用者数
- ・利用者層
- ・物資状況
- ・体調状態

など

情報
連携

＜自治体＞

- ・災害対策本部
- ・物資センター
- ・保健士

＜D-MAT＞

など

**行政がアプリを活用し、避難者の
情報を集約、関係部局と共有
することで、的確な避難支援**

車中泊パークの管理・運営研修



- ・オンラインセミナー
 - ・シュミレーション研修
 - ・ボランティア研修
- など

**駐車場が併設されている施設の職
員数名が運営できる計画と研修。
民間との事前の連携**



熊本地震を経験したからこそ、施設整備と情報連携の必要性を基に計画

災害時車中泊避難パーク ハードの整備とアプリでの管理

車中泊避難者の安全を確保するために、物資・トイレ・街灯・電源の整備を基本とします。情報の収集・共有はアプリで行ないます。

災害時車中泊避難パーク

無電源
街灯



情報連携

自治体
・支援物資
・保健士

D-MAT

NPO
福祉ボランティア

日本RV協会と連携
日頃から車中泊旅行をする事により、
災害時の車中泊避難の練習を遊びながら学ぶ

車中泊支援アプリ 全体概要

- ・車中泊者の把握、管理
- ・エコノミー症候群の注意喚起
- ・災害発生初期混乱状態での適正支援物資

備蓄倉庫

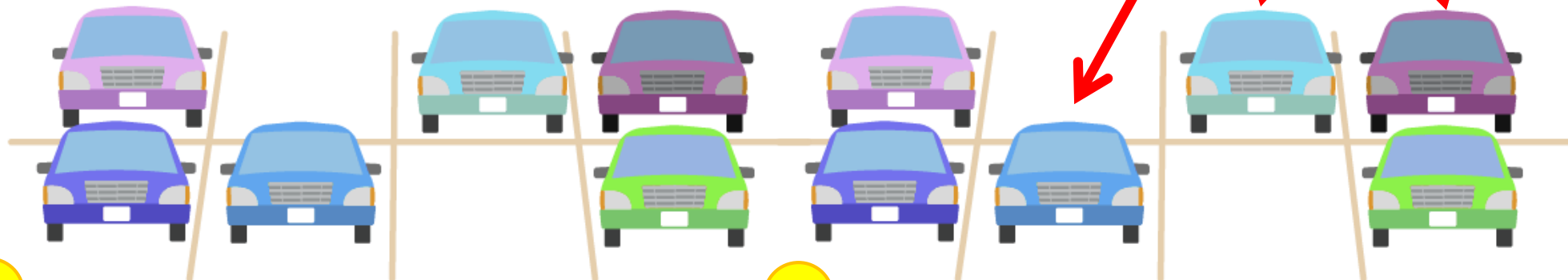
非常用電源
非常用バッテリー

トイレ
(仮設トイレ)

情報連携

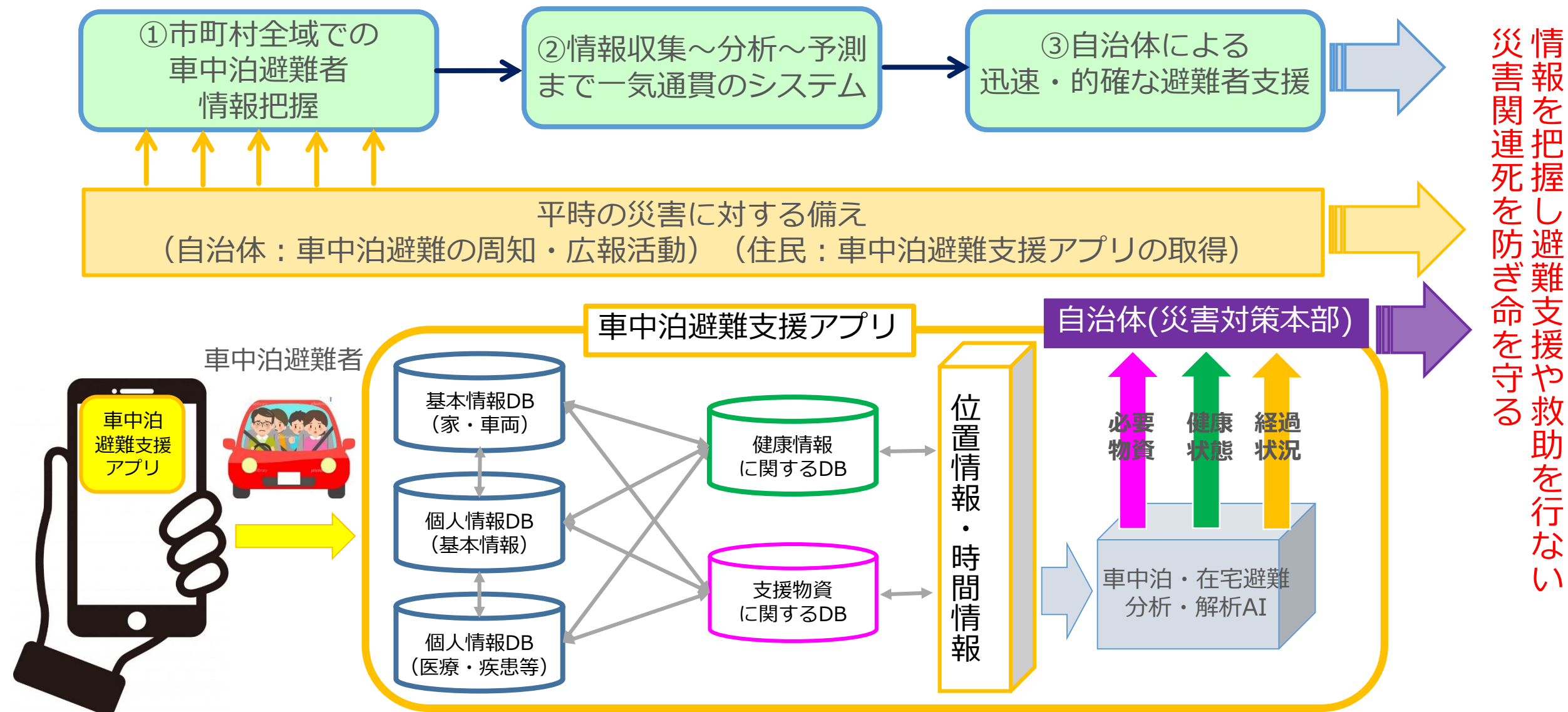
運動の通知

車中泊
支援アプリ



車中泊避難支援アプリ

開発したアプリシステムにて情報の収集・分析・予測した、車中泊避難者の情報を自治体が取得し、的確な支援(物資や健康に関する支援)が行なわれることによって、**災害関連死を減らし、一人でも多くの命を救うことが目的。**



熊本地震の教訓から改善 支援物資

① 不足した備蓄と混乱した物資配送

ピーク時は100台が連なる！

荷降ろしに最大8時間まち！

マンパワー頼りの非効率な荷降ろし



災害直後の混乱期の状況(4/14～4/24) KKW



KKW（最初の物資拠点）



ブルーシートを垂らし雨風をしのぐ



無造作に積み上げられた支援物資

**非効率な
マンパワー頼みの
荷降ろし作業**

改善後の物資搬送の状況(4/25～) KKW



パレット積みの輸送トラック
フォークリフトによる荷降ろし
民間委託による搬送



民間イベント会社
による管理・運営



在庫が管理され、
どこに何があるのか
整理されている状態

活用された物資と使う事もなく保管された物資



KKW（最初の物資拠点）



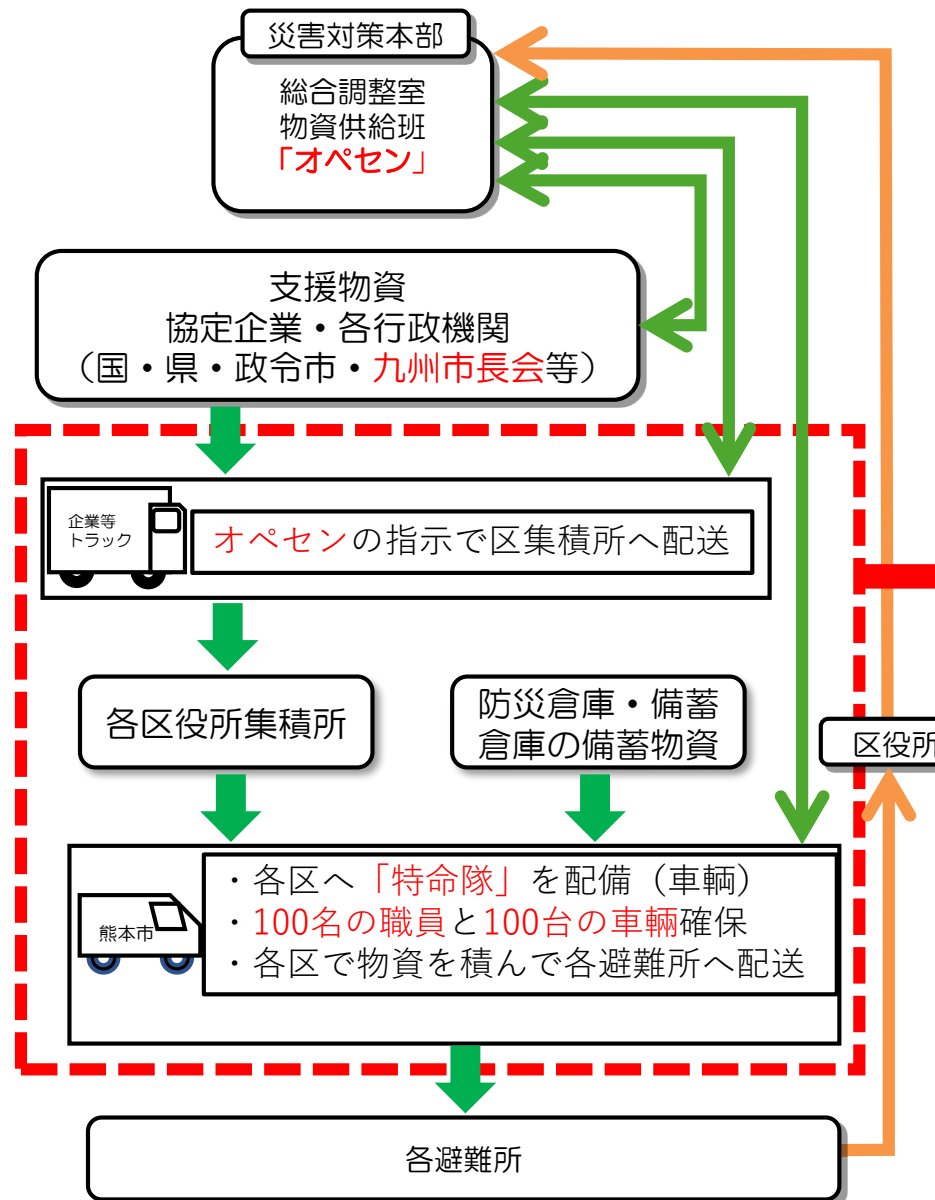
アクアドームくまもと（プール施設）



植木体育館（もらい過ぎた物資を保管）最終的には九州管内で共同備蓄

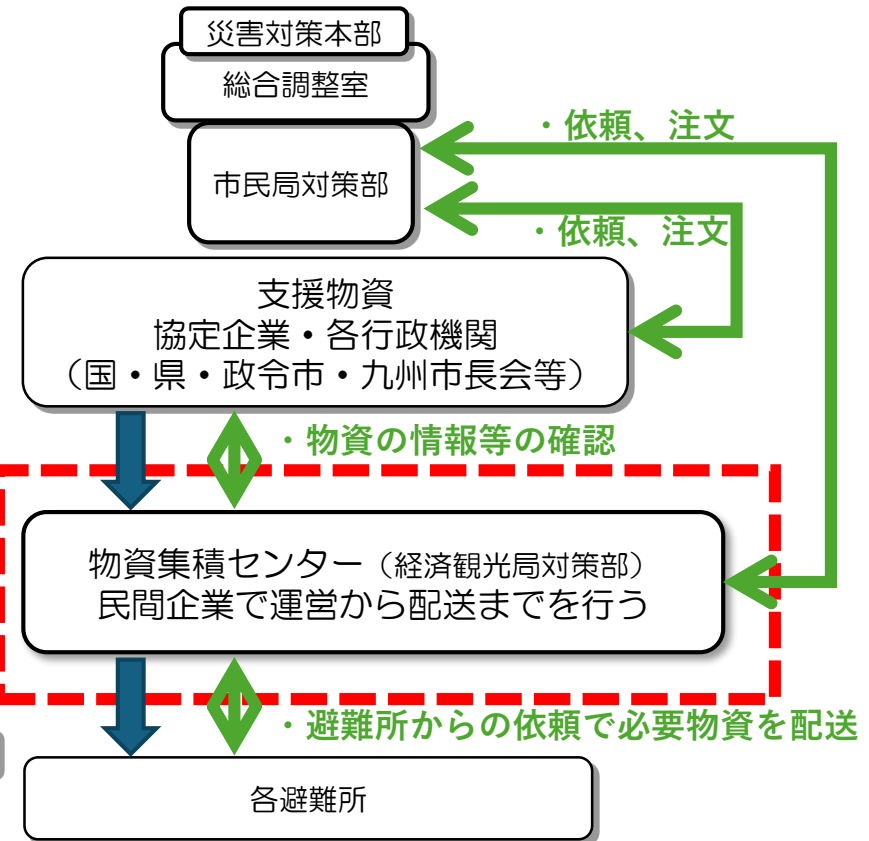
【1 物資供給計画の見直し内容（発災～3日目ごろ）】

発災後から物資集積センター稼動までの間

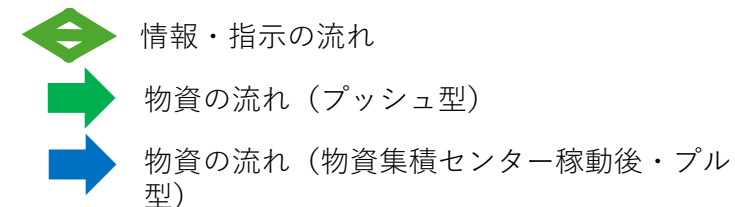


【2 物資供給計画の見直し内容（4日目ごろ～）】

物資集積センター稼動後



- ・市民局対策部：物資の依頼・注文を行う
- ・経済観光局対策部：物資集積センターの管理を行う

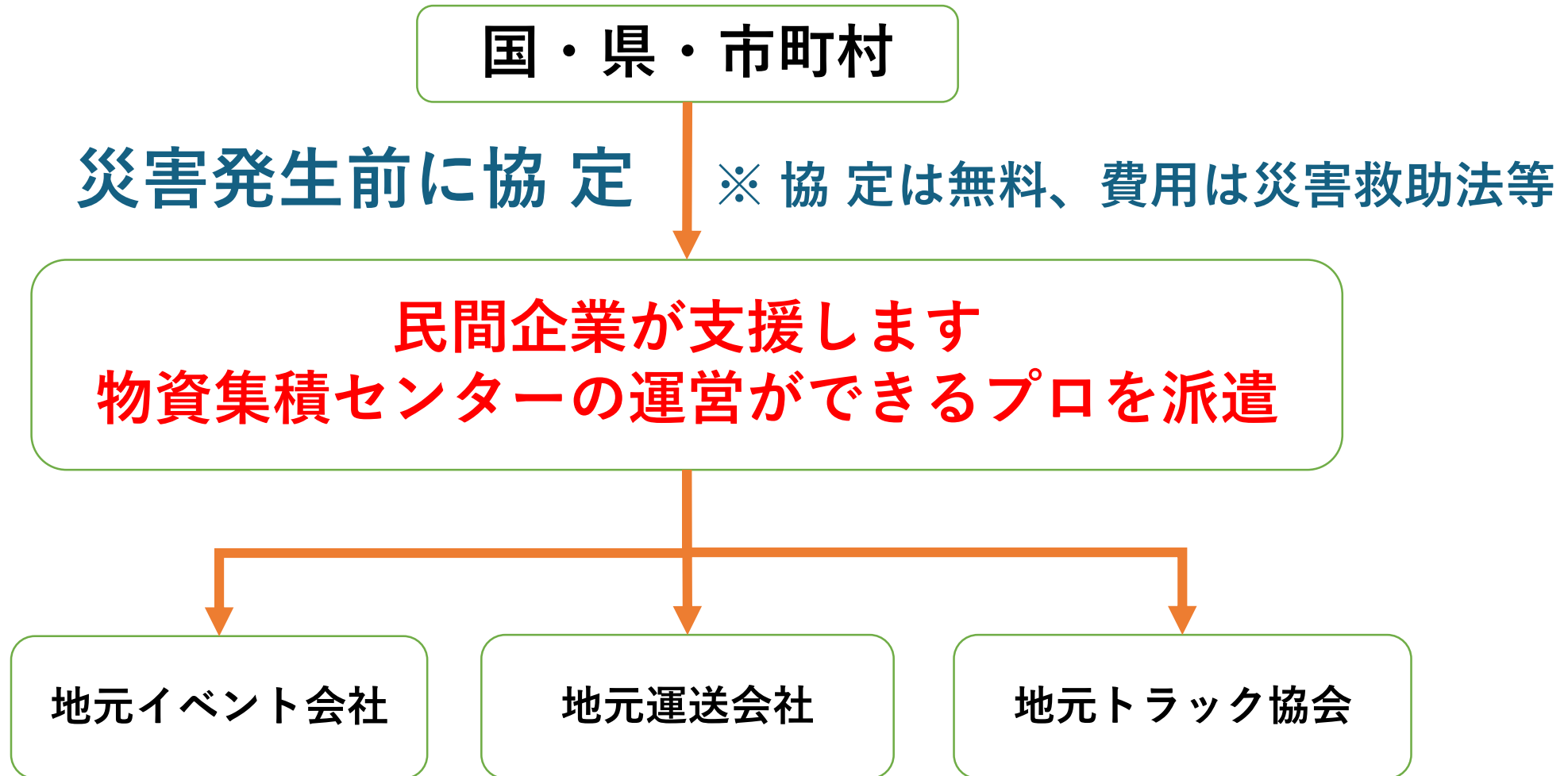


2 1月7日・16日 珠洲市健民体育館

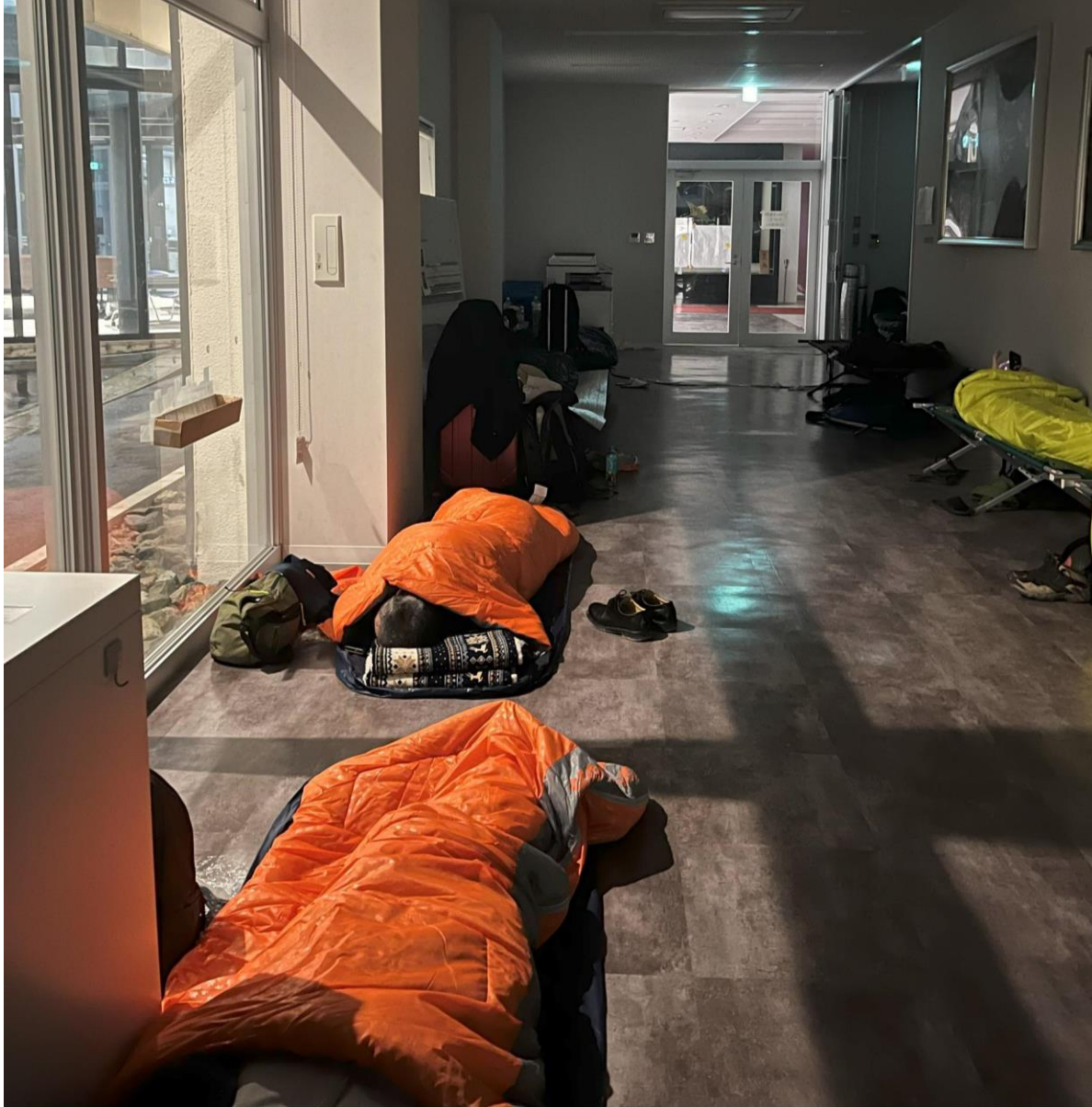


1月7日に2Lの水が約2,000箱積んであったので4分割し4カ所の搬出入口に置くようアドバイス
1月16日に来ているとそのままの置いてあったため床が抜けていた

新しい物資支援体制の流れ



キャンピングカー導入前は床に雑魚寝 対口支援職員（輪島市）



キャンピングカー導入後 対口支援職員

珠洲市 30台



輪島市 30台

新しい宿泊資支援体制の流れ

国・県・市町村

災害発生前に協定

※協定は無料、費用は災害救助法等

日本RV協会が支援します
キャンピングカー支援（機動力・宿泊）
能登半島地震での実績
輪島市、珠洲市へ30台ずつ手配
国・県・市町村職員の宿泊場所に活用

ご清聴ありがとうございました。
熊本城も一步一步復元しています。



質問等がございましたら
お気軽にご連絡ください。

✉ : kazzsp1@gmail.com

☎ : 090-8765-3409

Bosai Tech(株) 大塚